

# 成長つづける「イーソーコ」プロ集団」をまとめる運営

空き物件の賃貸情報やインターネット上で閲覧、検索できる「イーソーコ」は現在、メルマガ購読者2万3千人、会員4千人を擁する。同サイトを日本最大物流不動産ネット「アバンセロジステック」(東京都港区)の遠藤文社長に話を聞いた。

「男性が多い物流業界で女性が活躍していることは、ありがたいことを意識した。女性を積極的に採用したい。女性を積極的に採用したい。女性を積極的に採用したい。」

「イーソーコ」は現在、メルマガ購読者2万3千人、会員4千人を擁する。同サイトを日本最大物流不動産ネット「アバンセロジステック」(東京都港区)の遠藤文社長に話を聞いた。

「男性が多い物流業界で女性が活躍していることは、ありがたいことを意識した。女性を積極的に採用したい。女性を積極的に採用したい。女性を積極的に採用したい。」

## 記念すべき第1回に登場

平成18年6月5日号から開始

## 躍進する女性陣

第1回 アバンセロジステック・遠藤文社長

打ち合わせ室では色々な分野について話しかかれて、女性に権限を与えている。問題があれば、すぐに仕事を任せてあげて欲しい。イーソーコは成功事例を多く持っている。イーソーコは成功事例を多く持っている。イーソーコは成功事例を多く持っている。

「物流業界が主役になって、施設面から物流の合理化をサポートできる物流不動産ビジネスを確立させたい。」

「物流業界で働く女性」

「イーソーコの進化」

「イーソーコは成功事例を多く持っている。イーソーコは成功事例を多く持っている。イーソーコは成功事例を多く持っている。」



遠藤文社長

## 「とにかく人に恵まれて」成長

2006年6月に始まり、以来15年間、人気コーナーとして弊紙の表紙を飾ってきた「躍進する女性陣」

その記念すべき第1回に登場していただいたのが、現在、イーソーコ(東京都港区)の代表を務める遠藤文社長。当時は、アバンセロジステックの社長として取材をさせてもらった。同社はその後、社名を今のイーソーコに改めるとともに、核となるグループ会社を設立・拡大してきた。同社の事業内容は、物流不動産ビジネスである。

空き倉庫をいかに活用するかを目的にスタートした同社はその後、倉庫に不動産の概念を融合させ、業界に物流不動産という新しいビジネスモデルを定着させていく。今もその第一線で活躍している遠藤社長に、現状を振り返ってもらうとともに、現状や今後について聞いた。

2006年に取材を受けた当時、社長に就任して5年目だったという遠藤社長は、「物流不動産」という言葉もまだ十分に浸透しておらず、また、ビジネスとしてもようやく光明が見えてきたかなという中で、まさに手探りの状態だったことを記憶しています」と振り返る。

同社長によると、当時、特に営業倉庫は、寄託貨物を取り扱う性質上、自社の空き情報を外部に出すことには積極的ではなかったという。しかし、実際は、空きが出て困っている事業者も少なくなかった。そこで、同社は、倉庫の空きスペースを寄託貨物、賃貸双方で埋める、そんな事業をスタートさせた。

「理解をしていただくのに時間はかかりました」という同社長だが、倉庫事業者からも賛同を得られるようになるなど、徐々にニーズが高まり、業界へも浸透していった。

倉庫・物流施設検索サイト「イーソーコ.com」を立ち上げたことが、同社の飛躍に大きく貢献したと、同社長は当時を語る。

その後も、物流に不動産を掛け合わせ、さらに建築、金融、ITも融合しながら新しいビジネスの形を作り、サービスの幅を広げていく。また、異業種とのネットワークも広げ、次々と合併会社を設立しビジネスを拡大している。

「とにかく人に恵まれてここまで来ました」と話す同社長。5人でスタートした同社は現在、グループ52社、総勢120人のスタッフを抱えるまでに成長した。次世代をつくる若い世代の育成を行っており、インターンシップをはじめ、新卒採用にも積極的だ。

さらに、物流や金融、不動産分野における専門家も多く参画し、物流不動産ビジネスにおけるプロ集団が形成されてきたという。

当時、「個性的なプロ集団をまとめる猛獣使い」と言われた遠藤社長は、躍進する女性陣として弊紙に登場した当時から15年を経た今も変わらず、感謝の気持ちと謙虚な姿勢でグループを優しく束ねている。(高田直樹)

## 躍進する女性陣

特別編



イーソーコ 遠藤文社長